

# 進路のしおり



## 目次

家庭での取り組み	P 2 ~ 5
学校での取り組み	P 6 ~ 9
施設紹介・トピックス	P 10
施設一覧	P 11
進路状況・あとがき	P 12



特集

**「いま」を  
ゆたかに**

21世紀を迎えて、ますます地域福祉の重要性が問われています。そのようななか、在学中の取り組みとして卒業後の生活を考え、福祉サービスなどをたくさん利用するとともにさまざまな社会体験を増やし「生きる力」を培うことが大切なのではないでしょうか。

そこで今回は『“いま”をゆたかに』をテーマに、家庭や学校で取り組んでいることなどをまとめました。この特集を参考に、卒業後の生活を考えていただければと思います。

# …家庭でのとくみ…

ボランティアグループを利用することで、電車に乗ることが楽しくなった様子やインターネットでさまざまな関係を広げたり、生活サポート事業などを利用して将来設計を立てたりしている様子を紹介します。それ以外にご家庭で考えられる地域との関わりとしては、子供会への参加や学童保育の利用などを通じて同世代との関わりを深めたり、福祉まつりや旅行、ワークキャンプなどへの参加も考えられるのではないのでしょうか。

遊ぶ電車外出

## 休日を楽しむ

子どもは、障害の有無に関係なく成長します。当然わが子も体が大きくなって介助が容易でなくなり、だんだん休日の外出が少なくなりましたが、中学部に入った頃、「越谷プロジェクト」を紹介されました。

### ■「越谷プロジェクト」

肢体に障害のある子と同年代の青少年との交流や、障害者の社会参加の支援を目的に活動している団体で、活動は月2回、第2・4日曜日です。また、年1回程度で一泊旅行もあります。参加するには予約が必要ですが、登録などはなく自由に参加でき、集合時間や集合場所に無理がなく、お弁当も用意なくていいのでとても気楽です。

### ■初めての電車

初めて参加したときは、混んでいる電車やホームと電車のすき間など不安があったのですが、介助の人たちの手際の良さや車椅子の扱いもうまくてびっくり。その上団体行動しているのに一人一人のペースを大事にしているので安心して任せられました。

### ■楽しい活動

子どもも最初の頃は、昼食を食べたあと疲れて眠ってしまうことが多かったのですが、今では慣れてきて眠ることもなく楽しそうです。兄弟も一緒に参加できいろいろなところへ行けるので日曜日のイライラもなくなり楽しく過ごしています。

(越谷養護 高1 鈴木優希さんのお母さん)

このことがきっかけで、親子で電車に乗ることが苦にならなくなり、積極的に外に出かけるようになりました。多くの人と出会い、いろいろな体験を通して親子で成長することができたと思います。

「越谷プロジェクト」  
連絡先 TEL 0489-79-1148 (石上)  
0489-65-4675 (岡田)



## 僕が家で遊んでいること

大宮市立養護 高1 山中一臣

### ■パソコンとの出会い

中学1年生の時に、学校でパソコンを練習したので家でも購入しました。最初は主に画像処理をやっていましたが、インターネットもやりたいと思い、プロバイダと契約しました。やり始めた頃は見たいページをすぐには探せませんでした。今ではすぐに検索することができます。

最近好きなアーティストのホームページを見たり、e-mailで卒業生とやりとりしています。文章を送信するだけでなく画像を添付したりもしています。他にはデジカメで撮った画像処理などもします。

### ■ゲームやCD、コンサート

TVゲームのプレイステーションもやります。得意なジャンルは謎解きものですが、今はドラゴンクエスト7にはまっています。

他にCDを聞いています。好きなグループはGLAYです。2年前からファンになり、去年幕張メッセで行われた20万人ライブにも参加しました。コンサートに行く前までは、車椅子でも参加できるのか不安がありました。実際に行ってみたら僕以外にも車椅子の子がたくさんいました。中には僕よりも障害の重い子もいました。

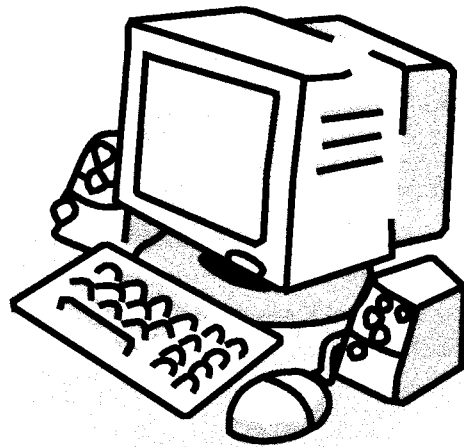
このコンサートをきっかけに電車などを利用すれば不自由なく出掛けられることがわかりました。今ではなんの不安もありません。大事だと思うのは、やってみようというチャレンジ精神だと思います。

機会があればまたGLAYのコンサートに行きたいです。

### ■インターネットは便利

この中で自分がやってみて最も、感心したのはインターネットです。GLAYのコンサートのときも幕張メッセまで行くにはどうしたらいいかと悩んでいました。本などを見てもわかりにくいのに、インターネットで幕張メッセのホームページにアクセスして行き方を調べると、あっという間にわかってしまうということに驚き、感心しました。これからも、どこかへ出掛ける時に行き方がわからなくなったらインターネットを使って調べようと思います。

パソコンは便利で楽しく、僕にとってなくてはならない存在になっています。



フ  
ラ  
ク  
リ  
ト  
フ  
ァ  
ン  
タ  
イ  
ム  
G  
L  
A  
Y

### インターネットを利用して — 秩父養護 小6 小林裕莉、麻悠さんの場合 —

小林さん姉妹は電子メールの交換やインターネットを活用しています。ゆっくりですが自分で機械を操作して、メールを送ったり読むことを楽しみにしています。

またインターネットでホームページに出ている詩や歌の情報を見て、詩を覚えたり歌ったりしています。国際子供図書館のホームページにアクセスし、知りたい本を検索したり絵本展の紹介などを知りました。2人とも将来は絵本を作りたいという夢があり、いろいろな情報を集めて絵本作りに役立てています。このようにしてパソコンの楽しみもより一層広がっています。

(文責 秩父養護 野口)

在宅支援サービスを利用して — 川島ひばりが丘養護 小4 三浦諒さんの場合 —

入浴介助  
留守番  
買い物  
掃除

■在宅支援グループ「暖手(だんて)」

「暖手」はいわば全ての人のための応援団。障害児・者の他、老人介護の支援も行っているグループで、家庭のニーズによって留守番、買い物、掃除…様々なサービスを提供してくれ、三浦さんは月、水、金の週3日、午後3:30~4:00という契約で入浴介助サービスを受けています。車椅子やベッドへの移動の時はお母さんと一緒に、その他は全部やってくれるということです。

「支援日誌」には楽しいひとときが記録されています。「お風呂に入ってさっぱりして気持ちよさそうに笑ってくれました」「ぞうさんを歌ってくれました」などなど。曜日ごとにほぼ決まった人が来てくれるので、お互いに慣れるのも早かったそうです。

■利用者側にたったサービス

申し込んだらすぐ対応してくれたとのこと。この迅速さも本人やお母さんにとって嬉しいサービスです。市外にはいろいろと違ったサービス形態があることはご存じだそうですが、「何より“暖手”はうちに来てくれるから、ありがたいの」とおっしゃっていました。「自分の目の届く所で支援してもらえるのは本当に安心だから」。

■「利用券」と「交通券」

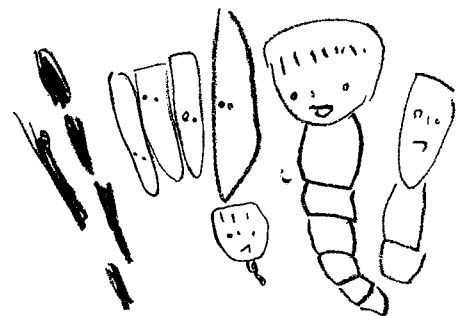
「利用券」を事前に購入し、利用ごとに渡すという方法だそうです。その他に介助者への交通費として「交通券」も必要です。けっして高額ではないけれど、頻度を考えるとやはり安ければ安い方がありがたい。「もっといろいろしてもらいたいけどね」と苦笑い。将来的にはショートステイも望みだそうです。

「暖手の人が来ると諒もわかるんですよ、もうにこにこしちゃって」と、うれしそうなお母さんでした。

(文責 川島ひばりが丘養護 担任記)

在宅支援グループ「暖手」

川越市山田 TEL 0492-24-5585



レスパイトサービスの利用(障害児・者生活サポート事業)

秩父地域には「ちちぶわくわくクラブ」という生活サポートをする団体があります。24時間利用できるので、多くの家庭で利用されています。

本人支援の場合「買い物やプールに行きたい」などの希望に対しては、同伴しての支援があり、家族支援では「冠婚葬祭のため」「旅行に行きたい」などに対して宿泊しての対応などさまざまです。

職員はみんなはつらつとして優しく、子どもたちの話し相手として親切に対応してくれます。この事業の利用を楽しみにしている子どもたちもたくさんいます。(文責 秩父養護 野口)

連絡先 『ちちぶわくわくクラブ』

秩父市山田559-7 TEL 0494-24-9961

# ひとり暮らしに向けて — 日高養護 高2 遠山真一郎さんの場合 —

親  
離  
れ  
体  
験  
入  
居  
タ  
ク  
シ  
ー

## ■お母さんの将来設計

真一郎さんは身体だけでなく知的にも重い障害があります。生活費は、受けられる制度を利用し、介助者を入れながら一人暮らしをし、日中は通所施設にかよわせたいと考えています。

彼にはもう1人、同じ障害のある弟がいるので、お母さんにとっては真一郎さんが親離れをし、生活面でも自立できるかどうか切実な問題なのです。

## ■親離れに向けて

中学部からレスパイトサービスを利用しはじめ、そのうちに泊まりも利用するようになりました。同時にお母さんは真一郎君が自分でできることを一つでも多くなるようにと、トイレの合図、食事の挨拶などができるようにしてきました。

## ■生活ホーム体験入居

高2の8月に、上福岡障害者自立生活支援センター21運営の生活ホーム「みどり荘」で、介助者をケアシステム「二人三脚」にお願いし体験入居をしました。

コミュニケーションがうまくとれないので心配しましたが、本人も会議の場に参加し、みんなに様子を理解してもらうことで適切な支援をしてもらうことができました。

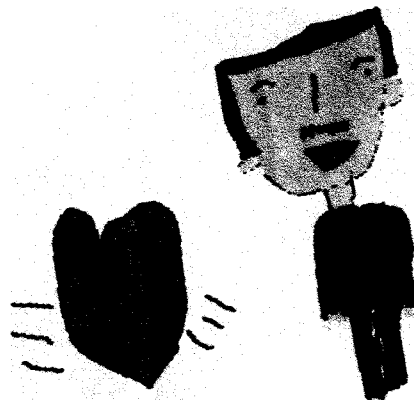
## ■タクシーを使って一人で登校

9月には、1人で車椅子乗車できるタクシーに乗って登校してきました。タクシーから車椅子のまま運転手さんに介助され降りてくる顔は自信に満ちていました。

今すぐ親離れは難しいのですが、将来スムーズにできるように在学中から一つ一つ取り組んでいます。

甘えん坊の顔は残しながらも、確実に「自信」が備わってきているようです。

(文責 日高養護 増田)



## 制度の紹介

### ・ホームヘルプサービス

障害児(者)のいる家庭や本人に対し訪問して、食事の介助や排泄、入浴補助などの身体介護、買い物や掃除などの家事援助、外出の時の介助などのサービスを提供してくれます。

### ・入浴サービス

身体障害者デイサービスセンター等での利用、もしくは巡回の入浴サービスがあります。

### ・ショートステイ(短期入所)

「緊急一時保護」から「短期入所」への名称変更にともない、レスパイト(家族の休養)としても利用できるようになりました。一週間以内を基本としますが、必要に応じて延長もできます。

### ・訪問看護

医師の診断に基づき、保健センターなどから看護婦が派遣されます。健康相談、指導、清拭等行ってくれます。相談窓口は保健センターなどです。

※利用の希望がある場合は、地域の福祉課もしくは児童相談所に相談して下さい。  
収入による自己負担のある場合もあります。


# …学校でのとりくみ…

学校では、現場実習や交流教育など様々な活動を通して、卒業後の進路を考えたり、在学中の生活を豊かにするよう取り組んでいます。そのようななかで子どもたちは大きく成長し、日々違った姿を見せてくれています。

その成果を卒業後の生活に生かせるようにするには、ご家庭での理解と協力は欠かせません。お子さんの成長を温かく見守っていただければと思います。

現場実習ってなーに？

## ☆現場実習（産業現場等における実習）



**目的**

- ・実習生活を通して、望ましい習慣や態度、対人関係を育てる。
- ・活動体験を通して、働くことの喜びや自覚と自信を培う。
- ・自分の進路や適性・能力について理解を深める。
- ・いつもと違う環境の中で、自分の力を発揮し成就感や成功感を実感する。
- ・障害のある生徒についての社会的理解を深める。

**実習場所** 公共施設・事業所・福祉施設等

現場実習は高等部における大きな教育活動ですが、生徒にとって学校と違う環境での自習は、日常生活での課題が見つかったり、卒業後の進路への意識が高まったりしています。また、保護者にとっても卒業後の生活をイメージすることができるようです。実習先でも、障害者への理解が進んだり、障害の重い生徒への関わり方が深まっていくこともあります。

### 会社での実習（反省会から）

#### 本人

事務関係のたくさんの仕事をさせていただいてとてもうれしく思いました。これから学校などで、パソコンなどを使うときに役立てばいいなと思います。

#### 実習先の担当者

今回は、いろんな仕事をお願いしたので、落ち着かなかったと思います。次回は決まった仕事を自分のペースでお願いしたいと思います。Aさんの可能性をいろんな場面で感じ取ったので、今後の成長が楽しみです。来年も是非きてください。

#### 保護者

現場実習は、とても有意義だったと思います。本人もやりがいをもって仕事が出来ました。今回のように、最後まで努力できたら良いですね。

### 福祉施設（実習ノートより）

#### 保護者

何も作業ができない娘が実習なんてと、不安や後悔の気持ちでいっぱいでした。でも、みなさんから温かい言葉がけをもらい作業にも参加できました。在宅は仕方がないと考えてもおりましたが、娘の表情を見て、やっぱり、子どもが通える場所が必要だと思いました。一日気持ち良くゆったり過ごせました。

#### 実習先の担当者

今日は一日歌を口ずさんでいました。学校とは違う刺激があったのでしょうか。実習をしてみても不都合や苦痛があったとすれば、それらを訴えてもらい改善していかなければと思います。既存の環境に慣れるだけでなく、積極的に自分の生きる場所を作り出していくような姿勢で頑張ってください。

## ☆社会体験学習

電車やバスなどの公共交通機関を利用したり、デパート、レストランでの買い物学習や食事体験、公共施設等の利用などを通して、社会体験の幅を広げています。

## ☆修学旅行・宿泊学習など

養護学校では、小学部から修学旅行など宿泊を伴う行事を行っています。修学旅行では、文化や自然のすばらしさに触れ親しむことなどを主な目的としていますが、他の宿泊学習と同じように親元から離れ仲間とともに寝起きをすることで、子どもたちにとっては自立への一歩を踏み出すことができるようです。また、日常できにくい活動を通して、社会参加の方法も学んでいます。

保護者の方にとっては、家から離れての宿泊体験ということで、子どもの自立を実感することもあるのではないのでしょうか。



## 外へ出ようよ

養護学校では自立や社会参加を進めるために、また日常の教育活動ではできにくい活動を、社会体験学習や修学旅行など「学校行事」という形で実施しています。

## ☆地域実習など

在学中から、自分の住んでいる市町村について理解を深めたり、福祉サービスなどの社会資源の利用の仕方を学んだり、ボランティアや同世代との関わり方を知ったりすることは大切なことです。

県内の養護学校の中には、「地域実習」として、取り組んでいるところもあります。

地域実習に参加した生徒・保護者の多くから、「参加して良かった」「良い体験ができた」「新しい発見ができた」などの感想が寄せられています。

(実際の活動例)

- ・社会福祉協議会や福祉課で、福祉制度についての学習をする
- ・ボランティアや同世代と一緒に活動をする
- ・公民館、図書館、福祉センターなどの公共施設を利用する
- ・レクリエーション的活動をする
- ・公共交通機関を利用する

この他、地区PTA活動として、レクリエーションや地域交流会などを行なっている学校もあります。

